

よりよい自分を築いていく子どもを育成する道徳科学習指導

～ テーマ発問とマトリックス図を用いた問題追求的な学習を通して ～

所属機関 筑紫地区教育研究所
所属校 那珂川市立岩戸北小学校
職・氏名 教諭 引地 健也

1 主題設定の理由

(1) 道徳科の課題から

文部科学省の「道徳教育のアーカイブ」によると、将来の変化を予測することが困難な時代を迎え、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要となり、子どもに必要な資質・能力を養う必要がある。そこで、自分たちがよりよく在ろうと考える道徳教育はこれまで以上に重要な役割を果たす。しかし、これまでの道徳科の学習では、「登場人物の心情理解に偏った授業」「決まりきった答えを言わせたり書かせたりする授業」が少なくないという課題がある。一人ひとりの子どもが自分自身の問題としてとらえ、向き合う、「考え、議論する道徳」への質的な転換を図ることが求められている。よりよい自分を築いていく子どもの育成をめざす本研究は意義あるものとする。

2 主題の意味

(1) 「よりよい自分を築いていく子どもを育成する道徳科学習指導」とは

これまでの自分の道徳的価値観を見つめ、個別の課題をもち、教材を基に自分の道徳的価値観を新たにしたり、これまでの自分の在り方を基に他者と対話したりして、これからの自分の在り方を明らかにする子どもを育てる道徳科学習指導のことである。めざす子どもの姿を「自己把握力」「自己追求力」「自己形成力」の3つの力から整理する。

- これまでの自分の道徳的価値観を見つめ、個別の課題をもつことができる「自己把握力」
- 道徳的価値を多面的・多角的に考え、自分の道徳的価値観に付加・修正・強化できる「自己追求力」
- 学習や対話したことを基に、これからの自分の在り方を明らかにすることができる「自己形成力」

3 副主題の意味

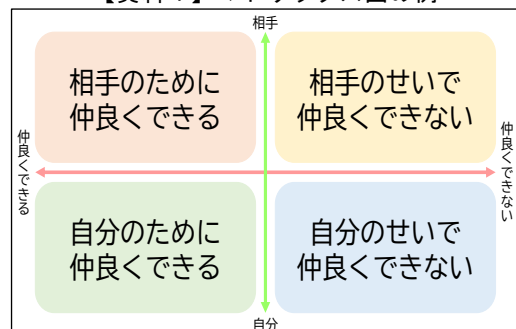
(1) 「テーマ発問」とは

子どもがこれまでの自分の道徳的価値観を見つめ、個別の課題をもつことができる発問のことである。例えば、「相互理解、寛容」では「約束を破られても仲良くできるか。」や、「親切、思いやり」では「誰からも褒められないが、親切にするか。」などである。個別の課題とは、子どもがこれまでの自分の道徳的価値観を見つめ、「約束をやぶられたら、許せない。」や「約束をやぶられても仲良くしたいから、結局許してしまう。」と表出した、一人ひとりの考えのことである。子どもが個別の課題をもつことで、道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題としてとらえ、これまでをふり振り返りながら道徳的価値に迫ることができる。

(2) 「マトリックス図」とは

自他の考えや立場を可視化し、考えの多様性に気付いたり、道徳的価値について多面的・多角的に考えたりすることができる図のことである。資料1のように「マトリックス図」の横軸が道徳的価値に関わる行為や心情の程度を表し、縦軸が自分や相手への気持ちの程度を表す。横軸と縦軸により区切られた4つの空間によって、子どもは自分の立場や考えを明らかにすることができる。

【資料1】マトリックス図の例



(3) 「テーマ発問とマトリックス図を用いた問題追求的な学習」とは

テーマ発問とマトリックス図によって、子どもが個別の課題をもち、自分と教材の内容を比べながら考えたり、他者と対話したりしながら道徳的価値を追求することで、これからの自分の在り方を明らかにする学習である。問題追求的な学習は、「自己把握」「自己追求」「自己形成」の3つの段階とする。

4 研究の仮説

テーマ発問とマトリックス図を用いた問題追求的な学習を以下のように仕組むことで、3つの力を高め、よりよい自分を築いていく子どもを育成することができるであろう。

5 研究の具体的構想

(1) 「自己把握」

子どもが個別の課題をもつことができるように、「テーマ発問」を行う。「テーマ発問」を受け、子どもが自分の立場や考えを明らかにすることができるように、「自分のマトリックス図」を用いる。「自分のマトリックス図」は、ねらいとする内容項目を基に横軸と縦軸の項目を設定する。「テーマ発問」と「自分のマトリックス図」を用いることで、子どもがこれまでの自分の道徳的価値観を見つめることができる。以上の手立てにより、「自己把握力」を高めることができると思う。

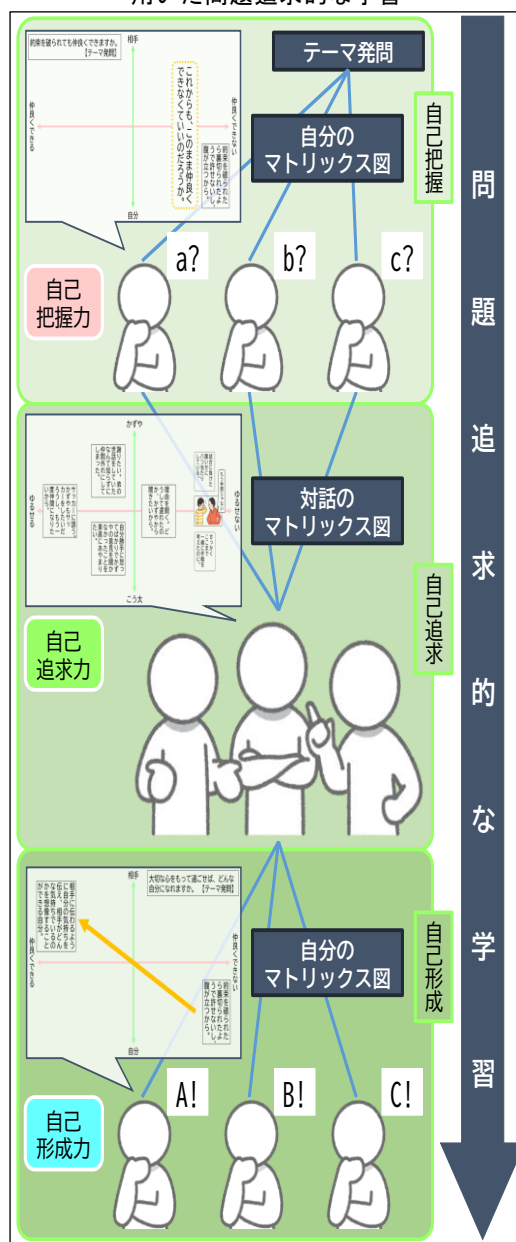
(2) 「自己追求」

自他の考えが可視化され、子どもが道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるように「対話のマトリックス図」を用いる。「対話のマトリックス図」は、教材の内容に合わせて横軸と縦軸の項目を設定する。「対話のマトリックス図」を用いることで、子どもが横軸の道徳的価値に関わる行為で葛藤する心情の変化を考えたり、縦軸の行為の目的や原因について見方を広げたりすることができる。以上の手立てにより、「自己追求力」を高めることができると思う。

(3) 「自己形成」

子どもが学習や対話を基に追求した道徳的価値観を見つめ、これからの自分の立場や考えを明らかにすることができるように、「自分のマトリックス図」を用いる。「自分のマトリックス図」を用いることで、考えの変容が可視化され、道徳的価値観の高まりを子どもが実感できる。以上の手立てにより、「自己形成力」を高めることができると思う。

【資料2】 テーマ発問とマトリックス図を用いた問題追求的な学習



5 研究の実際

【実践】 第4学年
 主題：相手のことを考える【B-10相互理解、寛容】 教材：ちこく（日本文教出版）

(1) ねらい

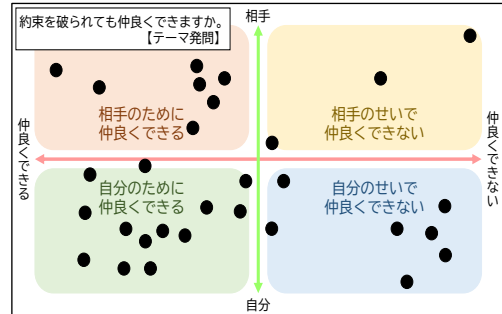
- 「約束を破られても仲良くできるか。」という視点から、これまでの自分の道徳的価値観を見つめ、個別の課題をもつことができる。 **【自己把握力】**
- 後悔が膨らみ、葛藤する「こう太」の気持ちを多面的・多角的に考え、自分の道徳的価値観に付加・修正・強化することができる。 **【自己追求力】**
- 学習や対話したことを基に、自分の道徳的価値観を見つめ直し、これからの自分の在り方について明らかにすることができる。 **【自己形成力】**

(2) 「自己把握」の段階

「自己把握」では、ねらいとする「自分の考えを伝え、相手の考えを聞いたり、思いを想像したりしようとする。(分かり合う心)」について、子どもがこれまでの自分の道徳的価値観を見つめ、個別の課題をもつことがねらいである。そのために、自分は約束を守ることができているか、問いかけ、「約束を破られても、仲良くできるだろうか。」という「テーマ発問」を行った。子どもは、「自分のマトリックス図」を用いて、横軸の「仲良くできるか、できないか」、縦軸の「その原因は自分か相手にあるのか」を考えた。「自分のマトリックス図」には、「今度から気をつけるなら仲良くできるけど、少し怒る。」や「友だちのままでいたいから、また一緒に遊んでしまう。」、「自分は約束を守っているから、仲良くできない。」等の記述が見られた。

そこで、なぜこのように考えるのか、この考え方のままでいいのか、問いかけ、個別の課題を追求する意欲をもたせた。学級全体の「自分のマトリックス図」の分布は、資料3のようになった。全ての子どもが自分の道徳的価値観を見つめ、個別の課題をもつことができ、「自己把握力」を高めていた。

【資料3】「自分のマトリックス図」の分布



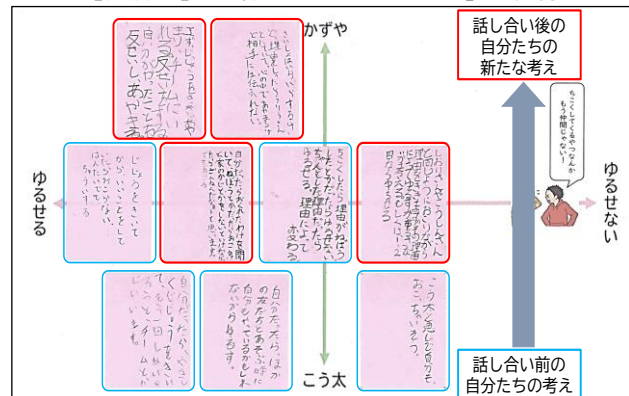
- 子どもの記述 (一部抜粋)
- イライラして許せない。腹が立つ。
 - 自分以外を優先していたら許せない。
 - 相手にも理由があるかも知れない。
 - 友だちを減らしたくない。お互い様。

(3) 「自己追求」の段階

「自己追求」では、教材「ちこく」を基に、「相互理解、寛容」について話し合い、本時ねらいとする価値について多面的・多角的に考えることがねらいである。まず、サッカーの試合に向け、練習や作戦会議をする仲良しな「こう太」と「かずや」の関係をとらえさせる。大切なサッカーの試合に「かずや」が遅刻し、「もう仲間じゃない。」と腹を立てた「こう太」のことをどう思うか、問いかけた。「自己把握」で見つめた自分の道徳的価値観を基に、「怒ってしまう気持ちが分かる。本当に勝ちたかったら、遅刻したことが許せない。」や「おかしいと思う。試合に負けた腹いせに「かずや」に八つ当たりしていると思う。」と発言する姿が見られた。

【資料4】「対話のマトリックス図」の実際

次に、「かずや」が弟の看病をして遅刻したことを知り、自分の言動に後悔する「こう太」の気持ちの変化を確認し、あなたがこう太ならどうするか、問いかけた。子どもは、「対話のマトリックス図」の横軸「許せるか、許せないか」、縦軸「こう太(自分)のためか、かずやのためか」から、自分の立場や考えを明らかにした。考えを小グループで出し合い、資料4のように

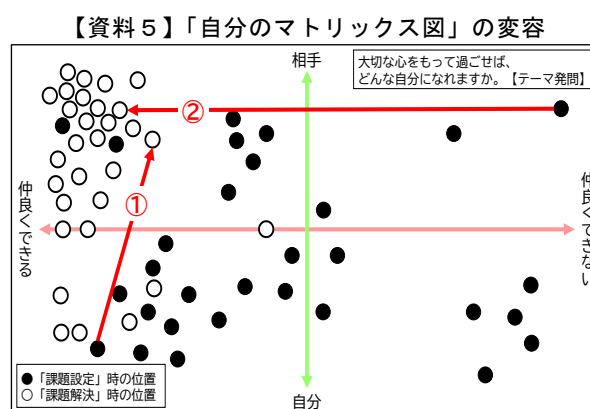


「対話のマトリックス図」にまとめ、同じ場面においても考え方が多様であることに気付くことができた。また、自分だったら許せるのか、許せないのか、それは「かずや」のためか、「こう太（自分）」のためなのか議論したり、「もう仲間じゃないと言わずに、怒りながらも、遅れた理由を聞く。」のように時間を変えて考えたりして、多面的・多角的に道徳的価値を考えることができた。

そして、これから許せるようになるためには、こう太にどんな心が必要か、問いかけると、「相手の気持ちを分かろうとする心と自分の思いを伝える心が大切だ。」や「まずは、相手の気持ちや考えを聞こうとする心。それから素直に自分の気持ちを伝える心。」と発言する姿が見られた。ねらいとする「分かり合う心」を捉えることができた。「対話のマトリックス図」によって、小集団の中で、道徳的価値について多面的・多角的に考え、付加・修正・強化することができ、「自己追求力」を高めていた。しかし、子ども一人ひとりの道徳的価値観の変容まで評価することができなかつた。

(4) 「自己形成」の段階

「自己形成」では、学習や対話したことを基に、自分の道徳的価値観を見つめ直し、これからの自分の在り方を明らかにすることがねらいである。そのために、大切な心をもって過ごせば、どんな自分になれるだろうか、問いかけた。子どもは、学習や対話したことを基に「自分のマトリックス図」を用いて考えた。資料5のように、全ての子どもの「自分のマトリックス図」が自分や相手のために仲良くする項目への変容が見られた。



①「今まで理由もなく許していたけど、自分の思いを伝え、相手の心を知れるようになる。そうすれば、相手も自分のことも分かり合えるようになる。」や②「すぐに怒らずに、まずは落ち着いて聞ける自分になる。今日考えたことを意識すれば、これからもっと仲良くなれそう。」等の記述が見られ、これからの自分の在り方を明らかにすることができた。これまでの自分の道徳的価値観を見つめ直し、ねらいとする「分かり合う心」を捉えることができ、「自己形成力」を高めていた。しかし、「優しい自分になれる。」や「もっと仲良くなれる」等の記述が見られ、これからの自分の在り方を、具体的に明らかにするまでに、至っていない子どもが16%（30人中5人）いた。

6 研究の成果と課題

- 「テーマ発問」と「自分のマトリックス図」を組み合わせることで、全ての子どもが個別の課題をもつことができた。「自己把握力」を高め、追求したい個別の課題を基に、教材の内容について考える意欲をもたせる上で有効であった。
- 「自分のマトリックス図」によって、個別の課題からの変容を明らかにしながら、これからの自分の在り方を考えさせることができた。子どもにとって決まりきった答えではなく、「自己形成力」を高め、子どもの道徳的価値観を広げたり、深めたりする上で有効であった。
- 「対話のマトリックス図」では、小集団での「自己追求力」を高めることができたが、子ども一人ひとりの高まりを評価することができなかつた。話し合い前後の変容を、評価する方法を考案する必要がある。
- これからの自分の在り方を、具体的に明らかにするまでに、至っていない子どもが16%（30人中5人）いた。小集団で、学習内容をふり返ったり、互いに助言し合ったりすることで、これからの自分の在り方を具体的に考えることができるようにする必要がある。